

太陽光発電 仕組み学ぶ

中区・瑞穂小 校庭にパネル設置、実験



太陽光発電の仕組みを学ぶ児童

＝浜松市中区高丘北の瑞穂小

浜松市中区高丘北の瑞穂小5年生は8日、太陽光発電の仕組みを学ぶ特別授業を校庭で受けた。同区のLPGガス販売会社「エネシン」の社員が講師を務め、児童は発電システムの組み立てや発電実験を通じて、環境問題や未来のエネルギーの在り方を考えた。

児童は住宅の屋根をイメージした斜めの架台に、モジュールと呼ばれるパネルを設置した後、配線をつなぎ扇風機やラジオを稼働させた。パネルをシートで覆うと、電気製品が動かなくなるのを確認し、太陽光エネルギーの力を実感した。

化石燃料の枯渇や、温室効果ガスの排出による地球温暖化問題について、社員の解説もあった。

授業は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）をテーマにした総合学習の一環。

（浜松総局・柿田史雄）